急性期高齢患者のADL変化の検討

- 看護必要度はADL評価の指標として有用か-

豊田地域医療センター 中上 裕人

藤田医科大学 太田 喜久夫

豊田地域医療センター 本樫 諭隆

市川 有紀

【はじめに】

- ・地域包括ケアシステム構築に向けて急性期退 院後の生活に必要な支援を検討するため、 院時ADL自立度調査を看護必要度B項目(以下 B項目)を用いて調査した
- 看護必要度B項目が地域リハビリテーション 医療での共通ADL評価指標として有用か検討 した

【対象者】

2017年4月から2018年9月の間に当院を退院し た65歳以上で1週間以上入院した患者

7.03版外上(1週間外上7個070個目										
病棟	病床数	対象者数								
急性期病棟	44床	173人								
回復期病棟	30床	259人								
地域包括ケア病棟	36床	482人								
療養病棟	40床	57人								
스 타	1E0 	۵71 ل								

【方法】

調査1

①急性期病棟入院時と退院時のB項目の変化を

調査する

②退院時B項目の点数を便

宜的に3段階に分類(表1)

し、転帰先別に検討する

③比較対象として回復期病 棟・地域包括ケア病棟を同

様に実施し比較検討する

段階付け 表1

B項目 FIM平均 軽度(0-1) 116.1

中等度(2-4) 95.1 重度(5-12) 67.6

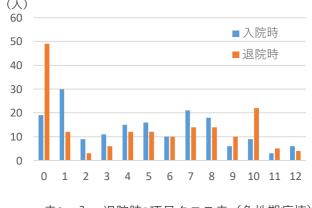
調査2 ①回復期病棟の入院患者を対象としB項目と

FIMの相関を求めた

【結果】 調査1

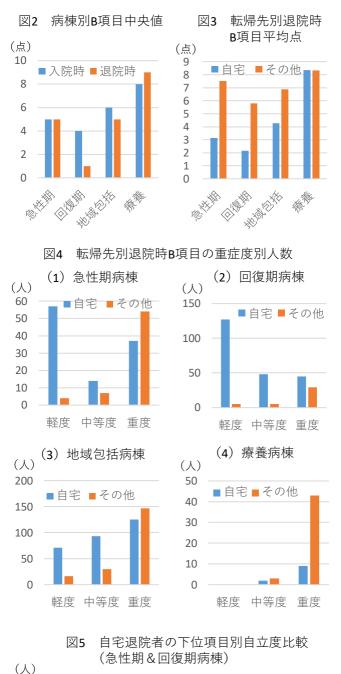
IJ

入・退院時B項目の比較(急性期病棟) 図1 (人)



入・退院時B項目クロス表(急性期病棟) 退院時B項目点数

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	12											4		2	
	11										1		1	1	
,	10						1	1		2		4	1		
人宗	9					1		1		2	1	1			
寺	8							2	3	2	1	8	2		
入完寺B 頁目点数	7		1			1	1	1	5	3	4	4		1	
貝	6				1		2	1	1	2	2		1		
<u>=</u>	5	4		1	1	1	3	3	1	1	1				
汝	4	4	1	2	1	2	3	1	1						
	3	2	1		1	3	1		1	1		1			
	2	1	3		2	2			1						
	1	20	6			1	1		1	1					
	0	18				1					60人/173人				





■不可

のランクがない

「寝返り」の介助は、何かにつかまればできるとい 注2: う評価基準である

調査2

300

250

自立

■介助

•相関係数:-0.843(退院時B項目とFIMの 相関)

【まとめ】

- 自宅復帰した患者の中には、 中等度から 重度の患者が少なくなく、自宅復帰後の 支援の必要性が示唆された
- •看護必要度B項目はすべての病棟で評価 されており、地域リハビリテーション医 療での共通ADL評価指標として有用と思 われる